

【2020年度 第1四半期決算説明会】 質疑応答概要

※説明会における主な質疑応答をご紹介します。

<日 時>	2020年8月12日(水)	15:00 ~ 16:00
<出席者>	明治ホールディングス(株)	取締役専務執行役員CSO 古田 純

Q1: 第2四半期以降の業績見通しについて、食品と医薬品ではそれぞれどのような点がポイントになりますか。

A1: 食品の第1四半期は比較的好調な決算となりましたが、医薬品は特に小児科や耳鼻科の外来受診患者数が低下したことで抗菌薬や抗ヒスタミン薬を中心に大変苦戦しました。

新型コロナウイルス感染症の影響は長引くと予想されます。消費動向もその影響を大きく受けますので、食品は第2四半期以降も同様の事業環境が続くと考えられます。従って、ヨーグルトやプロバイオティクスなどの乳製品は順調に推移する見通しです。業務用商品は第1四半期では大変苦戦したものの、6月以降売り上げが回復してきていますので、年間計画の達成を目指します。一方、チョコレートは低調に推移しており、どのように活性化するかが課題と考えています。

医薬品では、厳しい事業環境の中でどのような情報提供活動・普及活動ができるのかを模索しているところです。一方で、インフルエンザワクチンは順調に生産が進んでいますので、ワクチン以外の国内医薬品の落ち込みをリカバリーできればと考えています。

Q2: 第1四半期の「R-1」の売り上げは好調に推移しましたが、現在の販売状況や今後の持続性について、どのように分析しているか教えてください。

A2: 「R-1」の第1四半期の売り上げは前年同期比で大幅増収となり、間口も奥行きも広がったと認識しています。新型コロナウイルス感染症の影響で体調管理意識が高まり、新規のお客さまが増えたことに加え、一度喫食を止めてしまったお客さまも戻ってきていると考えています。

こうした状況を維持すべく、新しいテレビCMなどのマーケティング活動を強化しています。今後も、健康管理のために「R-1」を継続して召し上がっていただけるようにメッセージを効果的に発信し、好調を維持していく考えです。

Q3: 菓子事業は第1四半期は厳しい状況となりましたが、今後の打開策について教えてください。

A3: 在宅勤務の広がりによってコンビニエンスストアでの需要が激減したことで、オフィス需要向けのグミやチョコレート「ガルボ」などの売り上げが大きく落ち込みました。今後は新型コロナウイルス感染症の影響を見極めつつ、需要期となる秋以降に向けて、売り場作りや店頭での販促に力を入れていきます。

また、「チョコレート効果」や「オリゴスマート」などの健康志向チョコレートや、家庭内需要を追い風にした大袋タイプは比較的好調に推移していますので、機会損失の無いようしっかりと供給していきたいと考えています。

Q4: スポーツ栄養の売り上げは第1四半期では前年同期比で約3%増でしたが、「ザバス」「ヴァーム」それぞれの販売状況や今後の見通しを教えてください。

A4: 第1四半期は「ヴァーム」の売り上げは大きく落ち込みました。一方「ザバス」は、5月下旬からスポーツクラブが再開し始めたことや、運動不足解消やダイエット目的のニーズが高まったこと、また大谷選手を起用したCMの効果などもあり、6月単月では前年実績を大幅に超過しています。昨年11月に稼働した倉敷工場で製造する新しい品質の「ザバス」は溶けやすいと好評をいただいていますので、今後も堅調に推移すると考えています。

以上